

## (1) メダカ (ダツ目メダカ科)

### ① 分布

最上流域の一部を除く集落

### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 水田など

### ③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 メダカ (全集落)
- ・ 生息場所 タバヨ, ミト, ミトバヨ
- ・ 小さいこと等 コバエ, コバヨ, コビン, コビンチョ, コメン, コメンタ, コメンチョ, コメンパ, コメンパチ, チンチン, チンチンコーバイ, ネバンチョ, ネンバ, ネンパチ, ネンパチョ, メダ, メバイチョ, メバエ, メバチョ, メバヨ, メバンコ, メバンチョ, メンチョ, メンバ, メンパ, メンパチ, メンパチ, メンパチョ



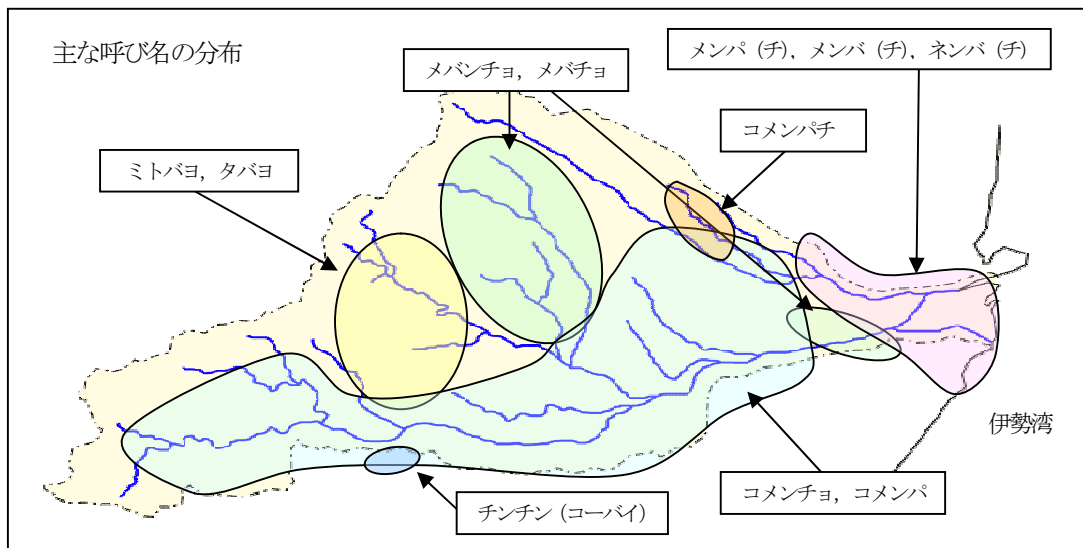
### ④ 分布と呼び名について

ほぼ流域全域の水路, 池, 水田といった水の流が緩やかな所又は止水域でよく見られたほか, 川においても流れのゆるやかな所などで見られたという。

呼び名としては, 標準和名である「メダカ」をはじめ, 小さいことなど計32種を採録した。

全集落から「メダカ」を採録したほか, 上中流域の広い範囲から「コメンチョ」, 「コメンパ」等を採録し, 流域で最も使われた呼び名となっていた。また, 四日市市内部地区から楠町及び鈴鹿市一ノ宮地区では広く「メンパ (チ)」, 「メンバ (チ)」, 「ネンバ (チ)」, 四日市市小山田地区では「コメンパチ」, 亀山市白川地区とその周辺地区では「ミトバヨ」, 「タバヨ」, 鈴鹿市高岡町周辺及び御幣川・八島川上中流域では「メバンチョ」, 「メバチョ」と呼ばれた。この他, 関町古厩及び亀山市木下町では「チンチン (コーバイ)」と呼ばれ, 隣接する中ノ川流域の影響が見られた。

なお, こうした呼び名の一部は, メダカ固有の呼び名としてではなく, カワムツ, オイカワなどの稚魚を含めた小魚類の総称として使われていた傾向にあることが伺われた。



### ⑤ その他

東京近郊の地方名のひとつであった「メダカ」は, 標準和名となり学校教育などにより1935年当時には既に流域の集落で一般化した呼び名となっていた。しかし, 当時の子ども達の間では昔から伝わる上記の呼び名も各集落で使われていた。

メダカの昔の呼び名を記憶するのは主として70歳代後半より年上の高齢者であり, 「メダカ」という呼び名が一般化して久しく, 調査は記憶の掘り起こしでもあった。

## (2) ドジョウ (コイ目ドジョウ科)

### ① 分布

流域の全集落

### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 水田など (土気の所)

### ③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 ドジョウ (全集落)
- ・ 稚魚 シンドジョウ, ドウジョゴ, ドジョーゴ, ドジョッコ, ドジョンコ
- ・ 中型魚 チュウドジョウ
- ・ 大型魚 ドッキュウ, ドッチュウ, トビ, ドンキュウ, ドンチュウ
- ・ 太い魚 ギュウタ
- ・ アルビノ アカドジョウ
- ・ その他 カラスドジョウ, クロドジョウ, ドウジョ, ドジョ, ドンジョ



### ④ 分布と呼び名について

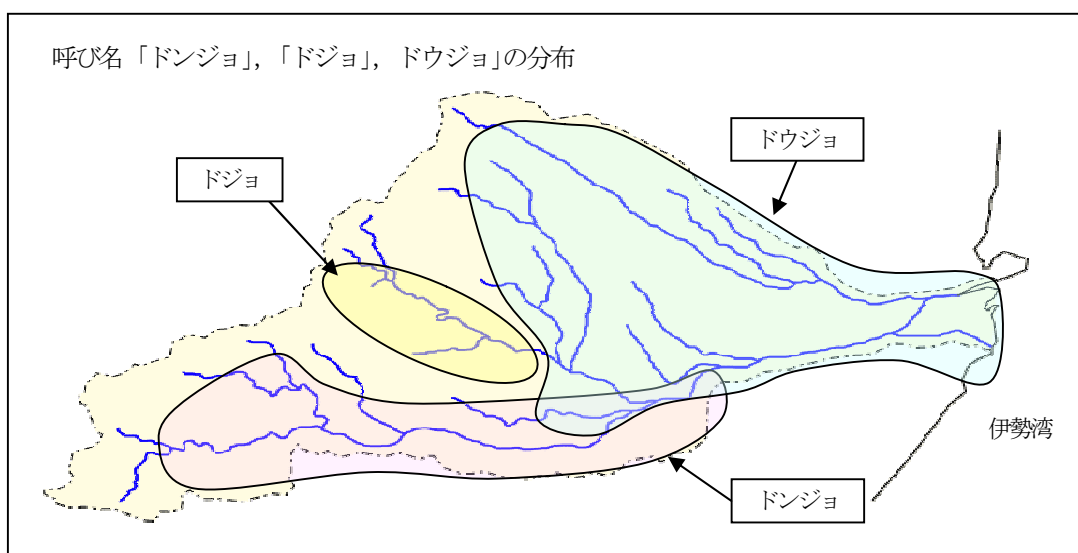
流域全域の川, 水路, 池, 水田など土気の多い水辺でよく見られたという。

呼び名としては, 標準和名である「ドジョウ」をはじめ, 稚魚名, 大型魚名など計19種を採録した。

「ドジョウ」を全集落から採録したほか, その方言と見られる「ドンジョ」, 「ドウジョ」, また短く「ドジョ」と呼ぶ地域に流域全体が大きく分けられ, これらはドジョウ類の総称としても使われた。「ドンジョ」は上流域の加太, 坂下地区から庄野地区周辺までの主として鈴鹿川本流沿いの地域で使われ, これは峠を挟み隣接する伊賀・甲賀地域の影響と見られる。それ以外の地域では「ドジョ」と短く呼ばれる傾向にあった安楽川上中流域を除き, 広く「ドウジョ」という呼び名が見られた。

また, 稚魚名としては「ドジョーゴ」, 大型魚名では「ドンキュウ」, 「ドッキュウ」を流域の広い範囲で採録したほか, 楠地域で「ドンチュウ」と呼ばれた。

なお, 太いドジョウである「ギュウタ」を中下流域で, アルビノと見られる「アカドジョウ」という呼び名を上流域の一部の集落で採録した。



### ⑤ その他

1935年当時には標準和名である「ドジョウ」が, 学校教育などにより流域で一般的な呼び名となっていたようであるが, 聴き取りの中で, 多くの高齢者から自然と口をついて「ドンジョ」, 「ドジョ」, 「ドウジョ」いった呼び名が聞かれたことから, 当時の子ども達の間では, 「ドジョウ」以上によく使われた呼び名であったことが伺われる。

## (2) -2 シマドジョウ (コイ目ドジョウ科)

### ① 分布

最上流域の一部を除く集落

### ② 主に見られた場所

川, 水路など (砂地の所)

### ③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 シマドジョウ
- ・ 生息場所 カワドジョウ, カワラドジョウ, スナドジョウ
- ・ 捕獲時の感触又は体色等 アミドジョウ, カマキリドジョウ, カミドジョウ, コクテンドジョウ, コムギドジョウ, コメドウジョ, コメドジョウ, シマドウジョ, ススキドジョウ, デンキドジョウ, ナツメドウジョ, ナツメドジョウ, ハリドジョウ, マメドウジョ, マメドジョウ, ムギカラドウジョ, ムギカラドジョウ, ムギカラドンジョ, ムギワラドジョウ, ムギワラドンジョ, ムジナ, ヤツメドジョウ, ヤナギドジョウ
- ・ ドジョウとの混称 ドジョウ, ドンジョ



### ④ 分布と呼び名について

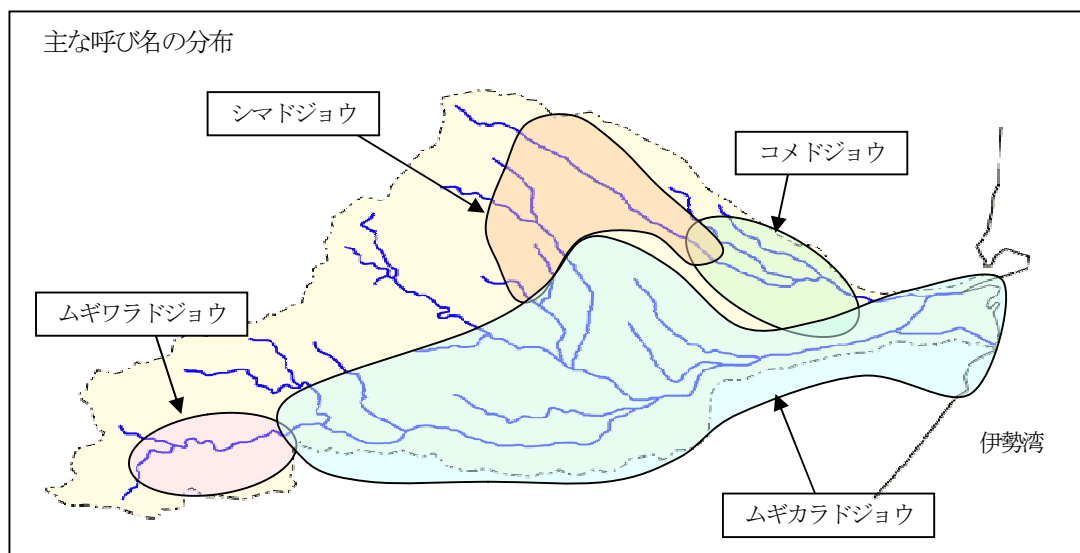
ほぼ流域全域の川, 水路など砂利が多い所でよく見られたという。

呼び名としては、「ムギカラドジョウ」をはじめ, 主な生息地である川・砂地からのもの, 少し刺すといった捕獲時の感触からのものやドジョウとの混称を含め計 29 種を採録した。

鈴鹿川本流の中下流域を中心に「ムギカラドジョウ」を広く採録したほか, 関町加太地区では「ムギワラドジョウ」, 御幣川・八島川流域では「シマドジョウ」, 内部川の中下流域を中心として「コメドジョウ」と呼ばれ, また, 流域の広い範囲で「カワドジョウ」とも呼ばれた。

なお, 集落によっては, ドジョウ類の総称としての方言でもあった「ドンジョ」, 「ドウジョ」を後ろにつけた呼び名 («ムギカラドンジョ」, «コメドウジョ」等) が採録されたことから, 学校教育により標準和名が一般化する以前は, 本種は普通のドジョウと区別し, «ムギカラ」, «カワ」, «コメ」といった呼び名の後に「ドウジョ」, 「ドンジョ」などつけて呼ばれていたものと見られる。

なお, 固有の呼び名がなくドジョウと混称となっていた集落も見られた。



### ⑤ その他

加太地区の集落において, «ヤナギドジョウ」と呼ぶシマドジョウに似たドジョウで, 背中の模様が異なるドジョウの話を探録したが, これは「アジメドジョウ」を示唆するものと見られる。

この他, 下流域の一部の集落において, «元気が出る」といい, 小型のドジョウ類を生きたまま飲み込んだという話を採録した。

## (2) -3 ホトケドジョウ (コイ目ドジョウ科)

### ① 分布

上中流域の集落

### ② 主に見られた場所

湧水の水路など

### ③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 ホトケドジョウ
- ・ 固有名 カミサンドジョウ, ヒゲドジョウ, メッキンドジョウ, メク, メクドジョウ, メクラドジョウ, ヤナギドジョウ, ヤナギドジョウ
- ・ ドジョウとの混称 ドジョウ



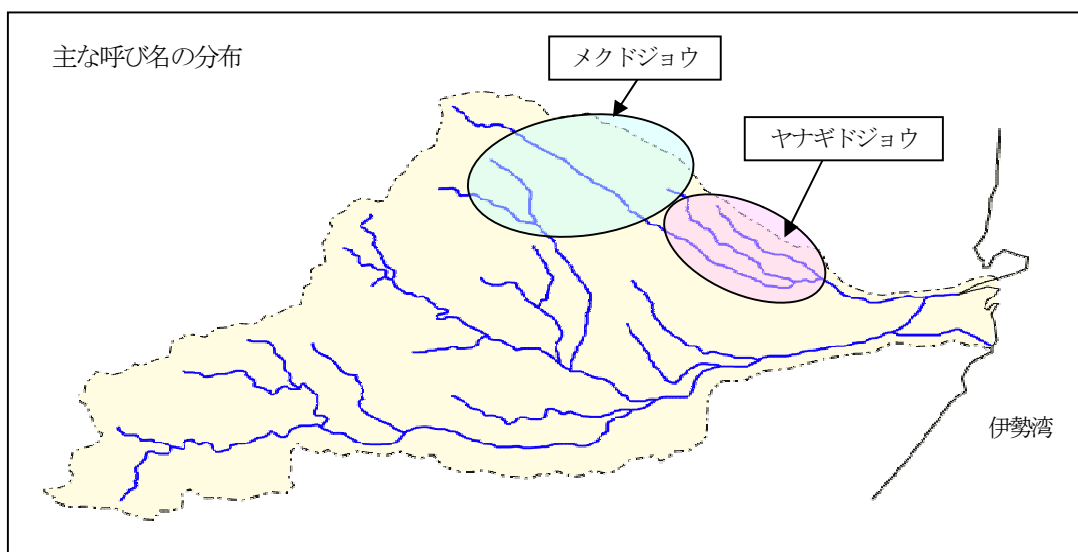
### ④ 分布と呼び名について

本種は、全集落調査を行っておらず、実際の分布状況は不明であるが、上中流域の湧水地や水路でよく見られたという。

呼び名としては、「メクドジョウ」をはじめ、ドジョウとの混称を含め計10種を採録した。

上中流域を中心として固有の呼び名が見られ、鈴鹿市椿地区から四日市市水沢地区において「メクドジョウ」、また四日市市小山田地区を中心に「ヤナギドジョウ」を採録した。その他、亀山市山下町で「カミサンドジョウ」、亀山市両尾町で「ヒゲドジョウ」、鈴鹿市西庄内町上野で「メッキンドジョウ」などと呼ばれた。こうした地域では、本種が多数見られたようで、大きさや形態、また頭部の特色から、他のドジョウ類と明確に区別されていた。

なお、いくつかの集落において本種の実物確認を行ったところ、特に固有の呼び名がない集落においても過去にいたという話が聞かれたことや、当時、鈴鹿川流域は湧水が豊富で、多くの場所に冷水環境のあったと見られることから、本種はかつて流域に広く分布していたものと考えられる。



### ⑤ その他

本種は、写真を用いた聴き取り調査が難しいと見られたため、もともと調査対象としておらず、調査の過程でその固有の呼び名を採録した場合において、周辺集落で聴き取りを行うとともに、一部実物確認を行った。

なお、小山田地区を中心に採録された本種の呼び名である「ヤナギドジョウ」は、鈴鹿川流域の広い範囲でも採録された。これらは魚種がはっきりとしないため、「種類不明魚」としてここに含めていないが、かつてはホトケドジョウの呼び名として流域で一般的な呼び名であった可能性がある。

## (2) -4 大型ドジョウ (ジンダイドジョウの可能性) (コイ目ドジョウ科)

### ① 分布

上中流域の集落

### ② 主に見られた場所

池, 水路など

### ③ 採録した呼び名

- ・ 生息場所 イケノドジョウ
- ・ ドジョウとの混称 ドジョウ

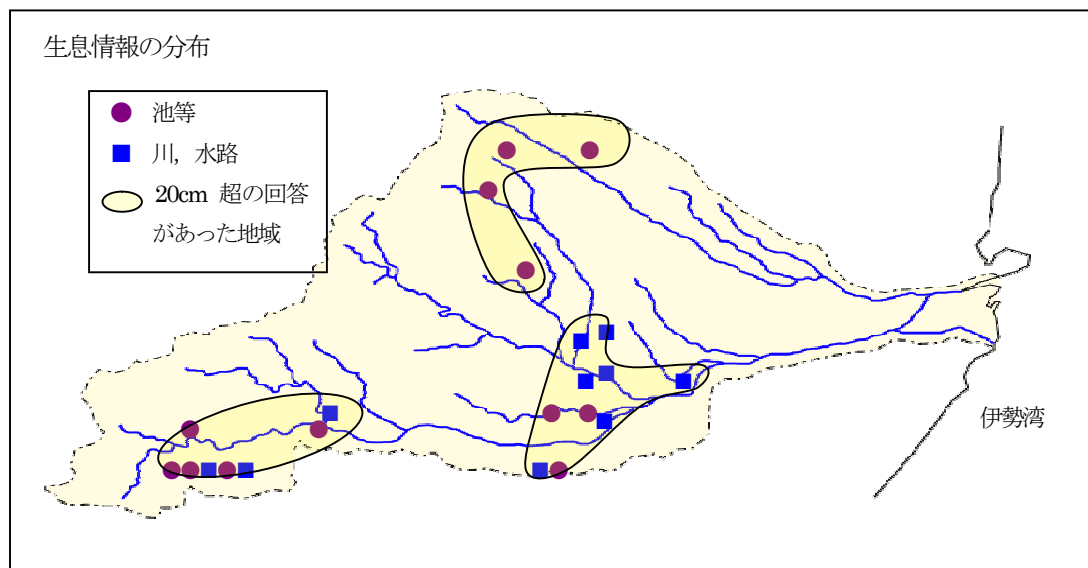
### ④ 分布と呼び名について

加太地区から関町地区, 椿地区から水沢地区, 阿野田地区から井田川・川崎地区などの上中流域を中心に池や水路で全長 20cm を超え, 場所によっては 25~30cm 近くにもなる大型ドジョウについての生息情報を採録した。これらは, 現在の伊賀市新堂地区 (旧伊賀町) においてのみ記録が残り, かつて泥深い水路などに生息し, 大きいものでは 30cm 近くまでなるという「ジンダイドジョウ」の可能性があると考えられる。

呼び名としては, 池の水を灌漑, 又は維持管理のために抜いた時などに見られたことから「イケノドジョウ」と呼ぶ集落が見られたほか, 関町新所では固有の呼び名があったようであるが, 昔の話であるため採録できなかった。これら以外は, 普通のドジョウとほとんど変わらない体形, 体色であるため, 単に「大きなドジョウ」, 又は「ウナギのようなドジョウ」と呼ばれていたようで, 固有の呼び名は特に採録しなかった。



<写真:ジンダイドジョウ>



### ⑤ その他

当初は調査対象とはしていなかったが, 聞き取りを進めていく中で, 「昔はウナギのように長いドジョウがいた」という話や「ジンダイドジョウ (当時の呼び名ではない)」という呼び名が聞かれ, さらに「昭和 20 年代後半に鈴鹿川流域でジンダイドジョウの調査を行い採捕等行った」というある研究者の話を採録した。そのため, こうした大型ドジョウはジンダイドジョウの可能性があると考えられ, 途中から調査対象に含めて生息情報を中心に聞き取りを行った。

調査方法としては, 普通のドジョウとの区別から大きさを基準とし, 全長 20cm 以上になる大型ドジョウについて, 当時における生息の有無について口頭での聞き取りを行い, 別途「大型ドジョウ (ジンダイドジョウ) 調査票」としてまとめた (→ 6(1) 大型ドジョウ (ジンダイドジョウ) 調査票)。

なお, 同時期に同様な方法で調査を行った中ノ川流域においては, 生息情報は得られなかった。